



コロナ禍による各楽団の対応・対策

コロナ禍による各楽団の対応の、情報提供をお願いいたしました。各々事情が異なると思いますが、活動再開の参考にいただければと存じます。（編集長：清水玲子）

シニアアンサンブルあすなる 代表 柳原健児

我孫子にある2つ目のシニアアンサンブル”あすなる”の現状、今後の計画を報告いたします。コロナ禍のため、4月、5月、6月は活動をやめていましたが、7月になって我孫子市の施設が条件付きで、管楽器、合唱を除き、使えるようになりました。

7月は管楽器は演奏せず、10日は話し合いのみ、24日は弦楽器群、キーボードなど練習再開、8月から管楽器も参加して、通常どおりの練習を再開予定です。管楽器用に唾が飛ばないように譜面台に付ける透明遮蔽シートキットを開発した団員がおり、それをを用いて、楽器どおし2.5m間隔が望まれる管楽器間隔を2mに近づけることで、従来の練習場所で、定期換気をするにより実施できそうです。定期演奏会はございません。訪問演奏は9月以降になり、不明です。

アゼリア合奏団inシニア 代表 森田忠芳

3月より月2回の鑑木先生指導の合奏練習はそのつど中止にしてきました。そのために3月の恒例の定期演奏会や総会はできませんでした。（定期演奏会は2回分、チラシも2種類できあがっていました）・6月になり9月から再開予定として7月、8月も中止決定としました。

年間50回ほど行っていたボランティア演奏も今年度は行っていません。9月から再開できた場合に練習会場を300人収容可能の大会議室に変更しました。（手の消毒、会議室の消毒用の消毒液や手袋、紙タオルなどは会館に用意されています。また、体温などの健康状態のチェック用紙が配られます。）ただ2グループは7月より大会議室を使っての練習を始めました。自粛中に団員が作曲した曲などの合奏練習ですが、巷では感染者数が増加してきている現在、心配ではあります。・10月30日に団員のみでの内輪の演奏会を大会議室で行う予定です。

我孫子シニアアンサンブル 代表 上林敦志

新型コロナウイルス感染防止対策として我孫子シニアアンサンブルは2月27日の練習から活動を休止しました。その後の我孫子市の公共施設利用制限もあり6月末まで活動休止を延長しました。これに伴い3月から9月に予定していた3回の演奏会が中止又は延期となりました。

我孫子市は7月から3密対策を要請しつつ段階的に利用制限を緩和し、7月中は呼吸の荒い管楽器の使用は制限されるものの8月からは管楽器の使用も可能となりました。

これにより早速7月2日に3か月延期になっていた定時総会を開催し、7月9日から管楽器を除いて練習を5か月ぶりに再開しました。8月からは管楽器も加わり練習を行う予定です。

11月に予定している演奏会を3密対策の一環として当初予定の演奏時間・定員を半減した上で開催したいとの依頼が主催者からきていますので前向きに検討したいと思っています。

それにつけてもこれ以上ウィルス拡散しないことを祈るばかりです。

成田シニアアンサンブル青空 団長 関口純代

新型コロナウイルスの影響により当団の主たる練習会場である成田市の公民館が利用停止となり、2月28日を最後に3月以降練習を行えず、現在に至っています。

緊急事態宣言が5月25日に解除されたのを受け公民館の利用が6月2日から再開されることとなったので、6月5日に当団の役員会を開き、6月12日以降順次練習を行うことにしました。

本年5月15日に予定していた定期演奏会を、来年に延期しました。飛沫感染の防止を目し公民館が示した条件の一つに練習中のマスク着用があり、それにより管楽器の演奏者が練習に参加できません。これを緩和できる方法を模索しています。